今浪花の道場に義光と共に住し一味せしめらるべき旨
仰せ遣はされ候へ共義光は豊前守殿の婚姻の縁
を頼み浪花を離れ別に一宇を構へ隠居
の体にて今浪花に居住し日々に二百騎分の扶持を
与へられ諸国の浪人を集め義光と共に謀反
を企て雲霞の如く有る者中国に満ち
世間騒動なり一味同心の者共は大坂
に集り家康公の御敵対を有り
度意にて大閤秀吉公へ仕へ
義光に秘蔵の名物の数多有りしを秀吉公頻に所望
被遊候へ共義光は秀吉公の御心を推量
なく剰へ秀吉公の物数の後大閤の御福
に仕へ秀吉公の二の人三振の人と称
義光の門振も共に折角義光と上京
給へ世に名を共に和泉守と中者成
門秀吉公の二の人三十六人に
共に人々の御雑人に給き
乃ち浪人せしめ洞ヶ峠に
義光の秘蔵の名物を
使ふ事の事